

月刊

AMDA Journal—国際協力— 4月号 □1999年4月1日発行 (毎月1回1日発行) 1995年11月27日 第三種郵便物誌可

AMDA

国際協力

Journal

4

APRIL
1999.4.1
(VOL.22 No.4)



ベトナム ストリートチルドレン プロジェクト
アフガニスタン 緊急救援報告

人に、そして街に優しい、絹輪の家。

K^{inuwa}
H^{ome}



LIVE NEW HOUSING
LIVE NEW HOUSING
LIVE NEW HOUSING

今、住宅に求められているもの、それは快適・健康そして省エネルギー化です。

これからは建て替える住宅から住み替える住宅へ
計画換気 + 高气密・高断熱

プラス
未来住宅
カトラン **+e**

絹輪建設は「人に優しく、地球に優しく」をモットーに
医療福祉・**AMDA** に協力しています。

1999年4月から医療施設部開設

土地から住まいまで…

株式会社 **絹輪建設**

一級建築士事務所／宅地建物取引業者知事(9)999号／建設業登録知事(特-7)5241号

(086) 943-2525 (代)

〒704-8191 岡山市西大寺中野1-1

AMDA
国際協力
Journal

1999
4月号

◇
CONTENTS



ベトナム ストリートチルドレン プロジェクト	
本部事業推進局 岡安利治・看護婦 児島 貞子	2
アフガニスタン緊急救援 速報	5
ハート会議 会見要旨	
アフガニスタン アブドゥーラ外務副大臣	6
ミャンマーってこんな国	
AMDA ミャンマー駐在代表 大森佳世	8
JICA フィリピントーサン計画	
岡山大学公衆衛生学 岩永資隆	10
NGO カレッジ報告	
NGO カレッジに参加して	12
NGO カレッジダイジェスト	15
国際協力のわ	17
寄付者一覧	22
神奈川支部だより	23
AMDA 国際医療情報センター便り	23
事務局便り	24



表紙の写真

**ベトナム ストリートチルドレン
プロジェクト**

AMDA カンボジアから派遣されたリテイ医師と
現地カウンターパートであるNGOタオダンのス
タッフが、AMDA からのおもちゃと医療品をス
トリートチルドレンにプレゼントした。子どもた
ちはとても無邪気に喜んでくれた。

AMDA へのご支援を

・・・グッズ紹介・・・

AMDA テレホンカード

新しいAMDAテレホンカードができました。
AMDAのトレードマークの写真ともいえる母
と子の写真を使用したもので、1枚につき300
円が収益となります。ぜひご利用下さい。

・1枚 (50度数)

1,000円

送料実費



誰でも持っている、小さな善意の結集が
大きな力となって、国際貢献が実現されます。
国際人道援助団体

AMDA 本部

TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
ホームページ <http://www.amda.or.jp>
E-mail: webmaster@amda.or.jp

ベトナム ストリートチルドレン 巡回医療事業

◇
本部 事業推進局

シニアプログラムマネージャー

岡安 利治

1980年後半から開始されたドイモイ(改革刷新)政策により、ベトナムは急速に市場経済を導入し、経済を発展させてきた。しかしその不安定な経済発展は貧富の差を拡大させている。地方の人々は仕事を求め、ホーチミン(サイゴン)市等の大都市にやってくる。観光客が多いホーチミン市を歩くと至るところにストリートで生活する老若男女がみられる。外国人が歩けば、ストリートチルドレンが新聞、雑誌、ライター等の小物を抱えて彼らに近づき、商売を試みている。ホーチミンだけでも2万人以上のストリートチルドレンがいると言われている。

AMDAは過去ベトナムに、1996年10月、1997年11月と台風による洪水被害に緊急救援医療チームを派遣してきた。ベトナムは不幸なことに毎年秋、台風による洪水被害で数百人単位の死者を出している。しかしベトナムビザ取得に時間がかかり、また中長期的事業

が実施されていないために、現地でのネットワークが弱く、受け入れ先となる現地カウンターパートを探す時間がかかり、AMDA緊急救援チームがスムーズに被災地に入る障害となってきた。

1997年の緊急救援はベトナムと関係が深い広島YMCAのネットワークに助けられたこともあり、1998年初旬にベトナムでストリートチルドレンを扱う現地NGOタオダンを紹介され、AMDAはストリートチルドレンを対象にした医療事業の実施を決定した。

ベトナムでの活動を通じ、ベトナム医療関係者との関係を築き、人材育成を行い、将来的には自然災害時

に、現地ベトナム医師・看護婦、AMDA医療派遣者が合同で救援活動を実施することも期待されている。

今回、合同で事業を実施している現地NGOタオダンは、1992年からストリートチルドレンの保護、教育、自立支援を目的に活動してきた団体である。日本人旅行者、学生、マスコミ関係者が訪れることも少なくないようである。

タオダン代表であるHung氏は自らがストリートチルドレンであったことから彼らを保護したいとタオダン



Safe House に保護されているストリートチルドレンと
タオダNSTAFFと筆者(後方左から2人目)

ンを設立したという。現在、10数名のスタッフと30人前後のボランティア(特に大学生)で常時200名から300名の子供たちを手助けしている。平日の夕刻、また日曜、祝日にホーチミン市内の動物園、遊園地、マーケットにストリートチルドレンを集め、読み書きを教えたり、と

もに遊んであげたり、栄養不足な彼らに給食を提供している。

そして、タオダンが実施できない医療面でのサポートを、医療NGOであるAMDAが担うこととなった。

ストリートチルドレンの多くは病気にかかっても、治療費が払えず、また交通費も払えず、医療機関へのアクセスが閉ざされているのが実態である。

1998年11月初旬にAMDAカンボジア支部代表シェン・リティ医師派遣を皮切りに、本部担当者、調整員、看護婦と派遣して事業を進めてきた。

AMDAはタオダンと協力して、ストリートチルドレンやホームレスの人々に対して、現在、ベトナム人調整員、ベトナム人医師と日本人看護婦で無料巡回診療を計6ヶ所で実施している。現在は診療地域の拡大申請を保健省に要請している。

病気予防を目的として、子供たちに衛生教育も行っている。さらに、Safe house (安全の家)と呼ばれるタオダンのストリートチルドレン保護施設やタオダン事務所に滞在している子供たちにも診療や衛生教育を実施している。

タオダンスタッフ、ボランティアに対して応急処置指導、衛生教育のワークショップを今年3月に開催予定である。

またタオダンとともに、栄養が不足しているストリートチルドレンに給食提供もしている。

ベトナムでNGO活動を実施するには現地担当省庁の管轄下で実施しなければならず、当事業もホーチミン市保健省の許可を得ながら活動しているが、なかなかこちらが期待する方向に進まない。そのなかで粘り強く交渉を行っているAMDA派遣者にこの場を借りて感謝したい。

私自身もこの事業の立ち上げのために、ベトナムに2週間ほど滞在し、ストリートチルドレンと接してきたが、タオダンが彼らに対して行っているアプローチの仕方もまた非常に興味深い。ストリートチルドレンのなかには、片親または両親のいる子供たちもいるが、精神的にゆがんでいる子供たちは決して少なくない。

しかしタオダンスタッフは急ごうとはせず、じっくりと時間をかけて多くのボランティアとともに、子供たちの心を開こうとしている。実に地道ながら確実に進めている。当事業実施期間中に、彼らに少しでも応急処置等の医療知識、また衛生知識をAMDAスタッフから吸収していただいて、ストリートチルドレンの健康維持に貢献してほしいと思う限りである。

この事業は残念ながら期待していた事業資金が集まらず、予定していた事業を縮小して実施しておりますが、それでも資金が不足しており、この記事を読まれ



診療するAMDAベトナム人医師



タオダンが実施しているストリートチルドレンへの教育。タ方にボランティアが中心になって子どもたちに教えている。



衛生教育をするAMDAベトナム人医師

た読者からの寄付を期待しております。
どうぞよろしく願いいたします。

<募金先> 郵便振替口座番号

01250-2-40709

<口座名> AMDA

通信欄に「ベトナム事業」とお書き下さい。

AMDAベトナムプロジェクト報告

看護婦 児島 貞子

サイゴン（ホーチミン市）は活気に満ちあふれている。これが、圧倒的に世代の若さによるものだという事は、人口の60%が戦後生まれ、つまり25歳以下ということを知れば納得できるだろう。街には狭い道路を埋め尽くすように、バイクとシクロ（自転車）が溢れ、ものを売り歩く人々で朝から夜までごった返している。排気ガス汚染は想像にかたくなし騒音もひどい。

ドイモイ政策以後10年、貧富の差は拡大し、現在、経済は低迷しているときく。急激な人口増加と経済の不調和、UNの課題であるファミリー・プランニングも追いつかず人々は職を求めて街に集中する。言葉の定義はさだかではないが近い将来、人口爆発がさげられないことはまちがいないと肌で感じられる。またベトナムでは毎年起こる洪水の度に、農地を失った人々が都市へ流入するという。一家の稼ぎ手となるのは、幼い子供たちの上から順番の使命である。



ストリートチルドレンの治療をする筆者

現在、ベトナムの人口は6～7,000万人、そのうちサイゴンには1割が集中する。サイゴンのストリートチルドレンの数は政府発表で7,000人、非政府のもので20,000人とされている。数がまちまちなのはこのストリート・チルドレンの「選別」が難しいこともひとつの要素ではないかと思われる。いわゆる捨て子や親の虐待から逃れてきた子もいるが、多くは強制的、または自主的に都会に出稼ぎにきたケースである。そのほか街のスラムからの子も多い。親の送り迎えで夕方から夜中に働きにでてくる子もいる。絵はがきや本、チュウインガムといったものを売り歩き1日1ドルくらいを稼ぐか、思春期になれば売春や麻薬、窃盗にも手をそめることもある。

昨年11月のカンボジア医師派遣に始まり、現在、AMDAはサイゴンで地元NGOのひとつである「タオ

ダン」のストリートチルドレンケアプログラムに加わりモバイルクリニック（バイクで診療をしてまわり）と子供たちへの保健指導とタオダンのボランティア達への基礎的なヘルストレーニングを実施している。このNGOは子供たちへの識字教育、修学援助、一時的な子供の収容等、多くの良心的ボランティアが関わり地道な活動をおこなっている。いずれは子供の家庭復帰が目的である。

プロジェクトが開始されてから間もないが子供から与えられるエネルギーは大きい。皆とてつもなく明るく、ひとなつこい。発展途上国では共通していること

ではあるが、体格は小さくたいてい実年齢より3～4歳幼くみえる。保健衛生面での問題は皮膚疾患（ダニ、真菌性湿疹、膿カ疹、かすり傷、小異物が刺さったままで放置し感染をおこしている、火傷等）上気道感染（特に慢性の咳そう）回虫、頭痛、下痢である。軽度の貧血は常に全体の1～2割（特にスラムで著明）みられる。

度の栄養状態不良のケースもわずかにみられる。

疥癬の拡がりが見られたセーフハウス（safe house）（タオダンの運営する子供の一時避難所）で疥癬撲滅のための薬と薬用石鹸の投与と保健指導を行った。指導の内容は、洗濯は個別に行うか、しばらく熱湯に浸水させて一斉に行う。疥癬の好発部位、ダニの習性については写真を見せながら解説した。2週間後 この問題は著しい改善をみた。子供に「洗濯はどうしてる？」と尋ねると「ちゃんと自分で洗ってるよ、omoで！お陽さまに干してるよ！」（omoとは代表的洗剤の名前）と答える。保健指導は大切である。教えられることを教えられれば子供は実践できる。

今後はタオダンに限らず他のNGOとも連携しサイゴン市内のストリートチルドレン、ホームレスの人々一人でも多く関わるよう活動をすすめていきたい。

アフガニスタン震災緊急救援プロジェクト 速報

AMDAは1999年2月11日(現地時間19時)にアフガニスタンで発生した震災に対し、医療チームを派遣し、現地での巡回診療を実施中。AMDAチームは18日赤十字国際委員会のフライトにてパキスタンを出発し、同日アフガニスタンの首都カブールに入りました。なおAMDAはこの1月23日、アフガニスタン・タリバン派政権の厚生大臣を含む厚生省関係者と、また2月22日にはアフガニスタン・ラバニ派政権の外務副大臣と緊急救援時に迅速に活動するための協力関係強化の会議(*ハート会議)を実施しており、このたびの活動は会議後、最初の緊急救援活動となります。派遣チーム活動詳細については以下のとおり。

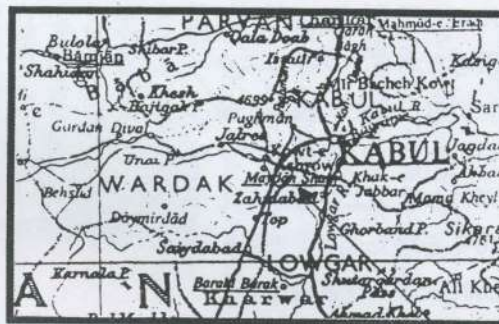
*ハート会議……………H.E.A.R.T. : Health Expert Assembly for Research and Training

現地調査

1. 18日、国連関係者と会合。
2. 19日午前中、国連関係者、各NGO責任者、厚生省関係者との会合にて情報提供を受けるとともに、活動の計画を検討。最大の被災地であるWARDAK(ワーダック)について情報提供を受ける。他の地域の情報は未確認とのこと。
3. 午後AMDAのもともとの活動地域であるLOGAR(ロガール)県の数カ所で現地調査実施。
4. その後NORWEGIAN CHURCH AID(NCA)よりWARDAK(ワーダック)県での視察要請を受ける。
5. 第一回ハート会議参加者の厚生省医療局長のIBNE AMIN(イブニ アミン)氏と会合、情報提供と支援要請を受ける。
6. 20日WARDAK(ワーダック)県内のMAIDAN SAHR(メイダンサー)地区での現地調査を実施した。

被害状況

1. LOGAR(ロガール)県では建物の破壊は10%未満。
2. MAIDAN SAHR(メイダンサー)地区では場所によっては60%以上の建物が完全に倒壊していた。
3. 人々はテント生活または親戚の家に避難している。
4. 寒さが厳しく、被災者の疲労も大であることから、被災者の大部分が急性上気道炎にかかっており、特に子どもたちの状態が悪い。



活動内容

上記の調査結果をふまえて、AMDAでは2月22日よりカブールから40Km離れたWARDAK(ワーダック)県内のMAIDAN SAHR(メイダンサー)地区において巡回診療を実施することを決定した。(21日は巡回診療の準備を行う)対象地域—IBRAHIMKHEL、BILALKHEL、JAMANKHELの各村とその周辺地域 対象者—その地域の被災者、特に子ども
2月22日 IBRAHIMKHELにて150人の子どもを診療。その9割は急性上気道炎。
2月23日 BILALKHELにて110人の子どもを診療。症状は同様。

活動メンバー

1. Dr. Durga Prasad Bhandari(デュルガ プラサド バンダーリ) / 36歳 AMDAネパール医師
*昨年9月よりアフガニスタンとベシャワールにて地域医療、難民への医療支援活動に参加中
2. Mr. Masood (マスード) / アフガニスタン人助手
3. Mr. Stanizai(スタニザイ) / アフガニスタン人通訳
4. Mr. Shaheedi (サヒディ) / アフガニスタン人ボランティア

アフガニスタン 震災被災者支援募金のお願い

AMDAではアフガニスタンでの救援活動のための募金をお願いしております。

厳寒の中、被災した方々への支援活動にご協力をお願い致します。

<募金先> 郵便口座：01250-2-40709 宛先：AMDAまたはアムダ
(通信欄に『アフガニスタン地震』と明記)

<お問い合わせ先> AMDA広報局 竹林 昌代 TEL:086-284-7730 FAX:086-284-8959

ハート会議

アフガニスタン・ラバニ派政権

アブドゥーラ外務副大臣 会見要旨

1999.2.26

まずはじめに、今日このようにアフガニスタンについて報道関係の皆様とお話する機会を設けていただきましたAMDAに対して、お礼を述べさせていただきたいと思えます。またこの会見の場におこしいただいた皆様に感謝申し上げます。

最初に、全体的な状況について申し上げます。残念ながらアフガニスタンではいまだに内戦が続いており、ソ連軍がアフガニスタンより撤退して10年を経た今も、平和が訪れるという希望はほとんどありません。

なぜ平和が訪れないのか？これははすべてのアフガニスタンの人々そしてアフガニスタンの友人が抱いてい疑問です。イスラム教国家を代表する私達は、交渉の上での解決以外には方法がないと信じている一方、反対勢力であるタリバン派は、いまでもアフガニスタンを武力で制圧することを目的としながら、武力闘争を続けるべきであると信じています。この点において、タリバン派は、私達の隣国の一カ国から支援を受けています。この理由において、これまでのすべての平和的努力が実らないのです。

内戦が始まって以来20年近くの

年月が経ち、アフガニスタンの人々はとても苦しんできました。何よりも彼らが必要としているのは平和です。国際社会は、タリバン派とそして彼らを支援している国々に対して戦いを止め交渉の場につくよう政治的圧力を行使するよう求めます。政治的解決こそがすべてのアフガニスタンにとって受け



入れられるものと思います。また私達は、国際社会はタリバン派によって行われている人権や女性の権利の侵害に対しそれをやめさせる道義的責任を負っていると思っております。

さらに、私達は国際社会に、アフガニスタンの人々に人道援助の手を差し伸べていただきたいと訴えたいと思えます。それは長引く戦争によるものだけではなく、昨年2月とそれ以降の2回の地震のような自然災害への援助の意味もこめていいます。その地震によって

7,000人の命が奪われ、数千人が家屋を失ってしまいました。

このたびの日本という美しい国への私の初めての訪問についてもお話ししたいと思います。6日前に私はAMDAの招待によって日本に参りました。今回の滞在期間の間、私はAMDAと外務省の方々とともに

有意義な話し合いの時間を持つことができました。また今日の広島平和記念館の訪問をはじめ多くの場所を尋ねることができました。

AMDAとの話し合いではAMDAのもつ力量、目的、仕事の方法をよりよく理解した上で、また私のほうよりアフガニスタンの状況を説明した上で、私はAMDAに以下のような人道的援助を要請いたしました。それは、アフガニスタンの人々の生活水準を向上させること、自然災害や緊急事態の際には、派遣団を送る、そして診療所を設置したりまたは医療スタッフの訓練を通じて公共医療システムの充実を図ることなどです。

また、私達は、アフガニスタン北東部とカブール地域での免疫付与プログラムの支援を要請しました。実際に、予防接種は300,000人の子ども達が住む地域では優先事項の



菅波 茂

アフガニスタンから内戦中のタリバンとラバニの両グループが前後してやってきた。タリバンは現在内戦中のアフガニスタンの90%の国土を実効支配しているイスラム原理グループである。保健大臣と医療局長と2人の地区保健責任者の計4人である。

ひとつです。わが国の保健省は、免疫付与プログラムを行っており、またいくつかのNGOと国際機関がこのプログラムを支援していますが、まだ現場の需要を満たすことができないのが現状です。このたびの私達の話し合いと決議が総合的な生活の水準の向上という共通の目的を達成するための一歩前進になることを願っております。

アフガン支援

ある。保健大臣はウッラーという称号を持つ聖職者である。42歳。笑うと、いかつい顔が子供のようになり無邪気になる。

AMD Aは現在タリバン支配下にあるアズローという人口1万6000人の町の病院と保健センターの再建を国連難民高等弁務官事務所と連携して担当している。この保健・医療プロジェクトの目的はパキスタンの国境の町であるペシャワールにいるアフガン難民の帰還を促進するための整備事業で

一方、前政権派のラバニグループからは外務副大臣が1人来た。2年前のアフガニスタン北西部を襲った大地震の時にAMD Aチームは彼とともに救済活動を行った。39歳の眼科医である。平和になれば、臨床に戻り患者さんの治療をしたいとのことであった。保健医療機関は20年間に及ぶ内戦により、80%以上が崩壊している。特に手術などができる第2次病院は医療機器や薬品の不足で稼働していない。手術が必要な重傷者は隣国のウズベキスタンやパキ

東京での外務省との話し合いでは、私達はアフガニスタンの状況について討議し、お互いに安定した平和こそが共通の目的であり、それは武力的な手段では到達することができないと言う共通の認識を持ちました。また私達はアフガニスタン国連事務局長特別大使への支援やアフガニスタンの人々への人道援助の必要性を強調しました。そして人権の侵害、テロリズム、麻薬などへの人道に関する問題に対し、国際社会の共通の立場

を表明することを強調しました。

最後に、私は今回の訪問がとても有意義で実り多かったのであ

ったと思っています。もう一度、私達への日本のすべての人々の思いをあらわしているようなAMD Aの皆様の暖かいおもてなしを心から感謝いたします。

(翻訳 佐々木 諭)



インターネット電話 ダイレクトTEL

新登場!!

デジタル携帯電話レベルの高音質、どこでも使える最大級のワイドエリア
あなたのお手持ちの電話がそのままインターネット電話になります。

●市外・国際電話料金を大削減

東京⇄大阪、3分間 20円

国際最大約
75%OFF
国内最大約
50%OFF

※3分20円は23:00～翌8:00までの料金です。

又、アクセスポイントまでのNTT料金は、含まれません。

お問い合わせは

販売代理店

オクト通信局

TEL.086-944-2907

FAX.086-944-8182

オクト通信局はAMD Aに協力しています

製造元 株式会社 シスネット
販売元 有限会社 レジャードーム

パゴダの国発「ケッサ ムッシバ ブー」

(だいじょーぶっ！)

AMDА ミャンマー駐在代表

大森 佳世

AMDАがミャンマーにやって来て、早4年になるうとしています。今回はAMDАの医療活動とは全く外れて、「ミャンマー」という国の魅力について、紹介したいと思います。

「ミャンマー?!」と聞いて、その国がどこに位置しているか、皆さんピンと来るでしょうか? タイ、ラオス、中国、インド、バングラデッシュと国境を接し、インド洋はアンダマン海、ベンガル湾などに面するこの国は、日本の約1.8倍の面積を誇り、多くの少数民族をかかえ、地域によって気候、文化などの様相が異なっています。人口は推定で約450万人。多くは仏教徒ですが、宗教も多様です。国旗の14個の星は7つの州と7つの管区を表し、農業主体のこの国らしく歯車は労働者、稲穂は農民を象徴しています。1948年1月4日にイギリスから独立を果たしました。義務教育でないことや進級試験が毎年行われるなど教育上の問題をかかえています。伝統的に僧院による寺子屋式教育が普及されていることもあり、識字率は約80%と開発途上国の中では比較的高い水準を示しています。ちなみに映画「ビルマの豎琴」では、中井貴一さん扮する僧侶が哀愁を漂わせながら日本の歌曲を豎琴で弾き涙を誘われますが、実際の僧侶はそういう世俗的なことはせず、たいへん敬われています。

首都ヤンゴンには、1年で最も快適とされる乾季(10月下旬~2月中旬)でさえ日中の蒸し暑さにジワッと汗が吹き出します。暑季(2月下旬~5月中旬)には歩くのさえ辛いといわれ、4月中旬の水祭り(日本のゴールデンウィークのようなもの)では、道行く人々に容赦なく、そして自分も濡れながら思いっきり水を掛け合い、つかの間の涼を楽しみます。長い雨季(5月下旬~10月中旬)には息苦しく感じられるほどの高い湿度の中、バケツをひっくり返したような雨が降ったりやんだりを繰り返します。でも大丈夫。多くの開発途上国に行くと、その国のゆったりした時の流れ

に気付かされるように、ここミャンマーも例にもれず、「ミャンマータイム」なるものがあるように感じられるからです。人々の営みは極めてのんびり、はつととしています。

在留邦人は約500人。1996年に観光年が設定されて以来、日本からも多くの観光客が訪れています。そして町を歩くと、日本で見たことのあるような顔立ちの人々、日本の文字が書かれた車(日本からの中古車)の多さに驚かされ、一体ここはどこなの?

と、錯覚さえ覚えます。そして至るところで目にするパゴダという黄金に輝く仏塔。AMDАミャンマーの仏教徒のスタッフも、「シェタゴン」というヤンゴンで最も大きいパゴダの前を車で通り過ぎるとき、しばし話しをやめて自然と手を合わせてお祈りをします。女性も男性も、ロンジーと呼ばれる巻きスカートのようなものを身にまとい、黄色い道路標識の子どもの手を引くお母さんの姿までロンジーです。女性は顔に「タナカ」という日本風の名前の天然植物パウダーを塗っています。かくいう私も、先日レモンタナカ(レモン入りの香りのよいタナカ)という塗っただけでツルツルになる魔法の粉を発見し、そのとりこになっており、朝に晩に塗っています。小型のバスにはぎっちり人々が乗り込み、振り落とされないようにしっかりとしがみつくと老若男女の筋肉は、細いながらもたくましさを感じさせられます。

この国を訪れる人々は、ミャンマーの治安の良さ、またミャンマー人の親日感情の良さに驚かされます。民族的親近感、第二次世界大戦前後における日本軍の駐留など、個人的なつながりなどにも起因するのでしょう。またビルマの豎琴に出てくる「水島上等兵」のようなお話も実際にあり、私も仕事の休日を利用して、残留日本兵の方々のところへ遊びに行ったりしています。そしてこの国でなんととっても魅了されるのは、純粋な人々の笑顔かもしれません。まだそれほど

AMDA ミャンマー子ども病院建設現場



外国からのヒトやモノが入ってきていないこともあり、人々は素朴で、すれなく、なつかしささえ感じます。

AMDA ミャンマーが活動を展開する村へ行く道々でも、いつも子どもたちが元気よく「バイバイ」と笑顔で駆け寄って来ます。もうかわいいたらありません。そして慈悲の心、隣人を憐れみ困窮する人を助けるといった行為が、社会的な美德になっており、家族の絆は極めて強く、父母を大切にすると同時に年長者を敬っています。仏教徒の男性は、一生のうちに一度は出家し、修行に励むといわれています。鉱物資源、農業資源などもさることながら、こうした人的資源は、この国の大きな潜在能力だと感じざるを得ません。

AMDA ミャンマーでは2月中旬の3連休を利用して、スタッフ総勢30名、「チャイティーヨ」というヤンゴンからバスで約5時間、そこから頂上まで徒歩で約3時間かかるところへ、ピクニック（地元の人にとってはお参りというのですが）へ行きました。これは山の頂上にそびえる絶壁の上に黄金の丸い巨大な岩があり、そしてその上に今にも落ちそうだけれども決してバランスを崩すことなく、数百年の間輝きを保っている不思議なパゴダです。行く道も遠ければより神秘的なパゴダで、見る人を圧倒します。日が暮れてライトアップされると、それはまた美しくたたくみます。この巨石が落ちないのは、パゴダに納められた聖髪の力によると信じられています。ここはミャンマーに数あるパゴダの中でも参拝者に幸せをもたらし、3回行くとお金持ちになるとされています。AMDA ミャンマーのスタッフの中にも、今回が5回目、6回目、という「チャイティーヨクレイジー」が何人もいました。みんな普段の仕事の疲れも忘れ、ゼーゼーキャピキャピ言いながら山を登り、いい汗をかきました。

ミャンマーを訪れたら、AMDA ミャンマーのプロ

ジェクトサイトはもちろんですが、中央部ドライゾーンに位置するバガンの古代仏教遺跡は、インドネシアのボロブドゥール遺跡、カンボジアのアンコール遺跡と並んで、世界3大仏教遺跡の1つとされており、ぜひ寄ってみたい場所の一つです。宝石や銀細工も、安くステキなものを手にすることができます。もちろんマラリア、結核、肺炎、チフス、赤痢、コレラ、デング熱…といった病気も多く、だからこそAMDAの活動が必要なわけです。そしてインフラ整備も遅れており、すさまじい停電、電話事情の悪さ、プロジェクトサイトへ辿り着くまでのデコボコ道、と多くの問題はあります。しかし私たちに笑顔で手を振って駆け寄ってくる子どもたちを始め、多くのミャンマーの良さに触れ、きっと皆さん、ミャンマーファンになって帰って行かれることでしょう。ぜひ一度、パゴダの国へお越し下さい。何があっても「ケッサムッシバパー（大丈夫）」ですから。

* AMDA ミャンマーでは1月に一ヶ月、JICA 専門家である中原美佳看護婦を迎え、巡回診療、給食センターなどのプロジェクトがより持続性が考慮された、深化したものに生まれ変わろうとしています。ABA（アジア仏教徒協会）との協力による学校建設も、大使館から正式に認可され、今年は中学校を含む大きな校舎が建つ予定です。

2月中旬にはヤンゴンから北へ車で2時間の場所にあるバゴー管区で、ルーラルヘルスセンターの建設、タウンシップホスピタルの改築も開始されました。そして地元の期待を大きく背負った小児病棟（AMDA ミャンマー子ども病院）建築プロジェクトは、予定より3ヶ月ほど早まりそうな勢いで、順調に進んでいます。

トーサン計画 (TOSANG PROJECT)

JICA (国際協力事業団) フィリピン家族計画・母子保健プロジェクト

◇
専門家 岡山大学公衆衛生学

岩永 資隆

1999年1月27日、ブラカン州のカルムピット町という小さな町で、トイレ用のコンクリート製の土管(タガログ語でtosang)を作るセミナーを行いました。受講者は地元の小さなNGOのメンバー10名(青年団員と呼んだ方がふさわしい)。講師はターラック州ターラック市の小さいバランガイ(村)の「普通のおじさん」、ベニーさん。60歳少し過ぎくらいでしょうか。痩せて、よく日に焼けて、歯のない口でいつもこやかに笑っています。彼はコンクリートの土管やブロックを作る名人で、管理を任されているバランガイ・ホール(村役場)の鍵数個とともに、いくつかの小道具をいつも腰にぶら下げています。昨年5月に、村長の結婚式のためにわざわざマニラに出て来た時にも、正装の腰に

はやはりいつもの鍵や小道具が重そうにぶら下がっていました。

1996年3月、私がターラックに着任し、ベニーおじさんのバランガイの村落協同薬局(一般薬局の無い地域で、主にヘルスワーカーを訓練して、処方箋に基づいた安価な薬剤を販売する仕組み)を訪れた際、建物の裏にコンクリート製の土管数個を見つけ、これらは何をするものかを尋ねたところ、トイレを建設するときに土中に埋めるものだと教えられました。しかもそれらは村落協同薬局のメンバーがベニーおじさんの技術指導で作製し、バランガイの人々に安く販売しているとのこと。価格を聞くと1個80ペソ(約240円)。一般の販売店では約200ペソで販売している。ト

イレを1ヶ所建設するのに、3本の土管が必要だそうです。セメント1袋が70ペソで、それから土管(直径約60cm、高さ約60cm)が3本作れます。なかなかよい生計向上事業だと思いました。

1998年7月、我々のプロジェクトに新たに2名の専門家が加わりました。そのうちの一人、佐藤祥子さんの任地、パタアン州を訪れ、マニラ湾沿いの漁村でのNGO活動を視察した際、地元の人より、約50%の家

にしかトイレの無い我々のバランガイにトイレ用の土管を寄付してくれとの要望がありました。私は、ベニーおじさんのバランガイの事を思い出し、土管作りの技術移転企画を考えるようになりました。それから間もなく、私自身

の新しい任地であるブラカン州のカルムピット町で活動しているNGOを訪れ、同じようにトイレの普及率50%の地区がある事を知り、住民がトイレの重要性を認識していることを確かめた上で、今回のセミナー開催ということになりました。

さて当日は、村長の歓迎あいさつに始まり、町会議員、NGOの代表、そして私の後、本日の講師、ベニーおじさんにマイクが渡されました。おじさんの話の長いこと長いこと。自分のバランガイの事、土管の事、まだまだ続きます。マイクを握ったら離さない人だったんだと気づき、助手役の同じバランガイの青年に耳打ちしてもらって、やっとベニーおじさんのあいさつは終わりました。さて、いよいよセミナーの開始





です。大きな黒板も用意され、概要の説明からかな、と思いきや、ベニーおじさんと助手の二人は黙々と土管の枠を作り始めました。講師が何も言いませんから、受講者は見ているよりほかはありません。「あの、ベニーおじさん、受講者に説明してあげてください。そして彼等にもやらせて下さい」とお願いして、やっと受講者の数人が材木の切り方や、それを釘でトタンに打ち付ける事を教えられました。ベニーおじさんはいわゆる「職人」ですから、弟子に教えることはあっても、同時に多数の人に手順を踏んだ指導をすることには慣れていないようです。それでも作業の一段階を何とか手短かに説明した後は、やはりまた職人にもどって、枠の内側には



める鉄の輪が真円になるように、ハンマーでカンカンと、1mmの差を追求しています。枠に流し込んだコンクリートの縁が少し沈むように、大きなフライ返しのような道具で細かく削り取ったり。実に熟練した職人芸です。

受講者の中に一人、非常に積極的にベニーおじさんに指導を受けている22～23歳の青年がいました。彼にベニーおじさんの技術のいくらかでも伝授され

ることを願いながら1日がかりのセミナーを終えました。保健衛生活動は女性に多くの部分が担われています。我々のプロジェクトも女性（妻・母親）を主な対象にしてきました。最近家族計画に夫を、母子保健に父親をも参加させようと、その機会を探ってきました。今回のセミナーが、保健衛生活動への父親（トサン）たちの参加の一助となるか、今後のバランガイの人々の動向を追っていきたいと思っています。

おみやげ・喫茶・お食事

岡山駅名店街

ピーチプラザ

岡山駅2F 新幹線改札口前

NGOカレッジレポート



第2回 NGO カレッジ報告

1998年度のNGOカレッジは、昨年7月の基礎（基礎知識の習得）コースとして、基礎理念、基礎知識、NGO人材育成と組織マネジメント、ケーススタディの講座を行うとともに、今年2月の実践（実践的かつ専門的な知識の習得）コースが行われ終了した。また、海外における協力活動の実際を見学するため、フィリピンへの海外スタディツアーも昨年8月に実施された。特に実践コースでは、受講生の皆さんより「6つのプロジェクトに分かれてシュミレーション・トレーニングを行い、プロジェクトを推進していく上で生じる問題点の把握や、その解決の手法など実践的なノウハウを学ぶことができた」と大変好評だった。

- 1) 財団法人ジョイセフ・自立支援 :
リプロダクティブ・ヘルス・プロジェクト
- 2) 幼い難民を考える会・保育、教育 :
保育支援プロジェクト
- 3) 埼玉県・JICA・保健、衛生 :
プライマリーヘルスケア・プロジェクト
- 4) 財団法人オイスカ・農村開発 :
海外研修センター設立プロジェクト
- 5) AMDA・医療 :
子ども病院建設プロジェクト
- 6) AMDA・保健医療、自立支援 :
難民緊急救援及び地域開発援助プロジェクト

大学で得ることのできない 貴重な経験

山下 望 (大阪市)

自分は大学で国際関係を中心に勉強していますが、常に実際の現場とかけ離れた論理を勉強しているような気がしていて、何か自分としては物足りない気持ちをもっていました。そのような中で大学の依田博教授に勧められて参加したのが昨夏のNGOカレッジ基礎編であり、今回の実践編でした。大学で習うこととは違った何かを吸収し、感じたいと思い、前回そして今回、参加しました。そういった意味で前回は得るものは多かったのですが、今回のNGOカレッジ実践編は自分にとって新鮮なことが多くて、非常に有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。

具体的に、自分が得たもの、参加してよかったと思うことを大まかに3点挙げたいと思います。

まずは、実際に現場で活躍している人、または活躍した人の話を聴くことが出来たことです。将来、国際協力関係の進路を考えている自分にとって、現場というものは切っても切り離せないものになると思います。また、実際そうでなければならぬと思っています。話を聞くことによって、現場から何もかも始まっているという印象を強く受けることが出来ました。これからの学習を進めるにあたって、モチベーション面でのよい刺激に



なりました。

2つ目は、グループ内でさまざまな年齢、さまざまな経験の人たちと同じものに取り組むことが出来たということです。大学では、ヨコのつながりが太く、タテのつながりで何かしようというようなことはほとんどありません。勉強するのはほとんど同じ年齢のヨコのつながりの人です。クラブというものがありますが、これは先輩後輩という特殊なタテの関係で、今回、自分が感じたものとはまた違うものです。今回のNGOカレッジで、このようなタテのつながりの人たちと『同じ土俵』で作業が出来たことは、自分にとってすごく新鮮で、これからの学習の刺激になり、また、自信にもなりました。

最後は、PCM手法をかじったということです。はじめは、何を目標しているのか分からず、全体像が見えなかったため戸惑いましたが、プロジェクト作成作業の終盤になって、やっと、その一貫性、論理性を目指した意図が分かりました。このように、一貫性と論理性を持たせるということはおそらく当たり前のことなのに、何かをする時はそのことを、見失ってしまいがちです。ものごとをする時に、この手法にしたがった考えをもとにすると

その当たり前のことも見失うことはないということ、身をもって感じる事が出来ました。これからの自分にこの手法をフィードバックしていきたいと思いました。

このように、大学では得ることの出来ない貴重な経験をさせていただいたわけですが、これからも、残り少なくなった大学生活で、あらゆる機会を活かしながら自分の夢に向かって前進していきたいと思っています。どのような中であっても、現場の目、NGO的な視点はいつも持っていきたいと思っています。

継続性の大切さを学んだ

賀谷秀幸 (広島市)

「NGOカレッジ？」 『NGOカレッジ』のパンフレットを見て、「NGO」および「カレッジ」という言葉に対するアレルギーのようなものが私の心にふつふつと湧いてきた。

NGOという言葉が一人歩きしている。マスコミの報道によってプラスイメージを与えられながらも、私には理解できない言葉として今も私の心の中にある。なぜなら日本語でわかりやすく説明できる自

信が、私自身も小さなNGOに関わりながらもいまだにできていないからである。また、「カレッジ」とはどういう意味なのだろうか。

そんな疑問を持ちながら、今回私は参加させていただいた。

シュミレーション研修では、カンボジアの保育支援プロジェクトのグループだった。一番衝撃的だったのは、カンボジアのポルポト政権時代に多くの知識人が虐殺された事実だった。人を育てる人たちがいないという社会、また、家族の親子関係等が伝統的なカンボジアの歴史において大きく崩壊しているということの悲しさに胸が傷んだ。講師の「若い難民を考える会」の関口先生からカンボジアの現状を伺うにつれて、私の心の中には、「私にはどうやって現地の人々の気持ちの中に入って、目の前にある問題を一緒に解決していけばよいのだろうか。」という複雑な気持ちが強くなってきた。

私を含めた5人のプロジェクトの参加者は、シュミレーショントレーニングのPCM手法に沿った形でプロジェクトをつくりあげていった。「現地の人々にとってこのプロジェクトを実施することは幸せにつながるのだろうか。」という同じグループの山下さんの最初の言

葉が今も胸に残る。シュミレーションでは、現地の人々の価値観、人生に対する幸福観は、はっきり言ってわからない。やはり現地で悩みながら、人々の声に耳をすませて聴くことが必要なのだろうと、今でも強く思う。そうでないと、いつまでも援助する側と援助される側の構図は変わらないのだから。目線を同じ高さにおくことの難しさは、10年前のブラジルの奥地でのわずか一年間の経験からも感じている。自分の生れた日本という土地の風土・環境の中で(いやそこからの視点でしか始まらないのかもしれないが…)、対象国の人々を見てしまう危険性を私も持っている。

また、今回参加してみて、「継続性」の大切さを講師の方から私は学んだような気がする。それは、現地の人と共に学び続けること、希望を持ってよりよい方向に生活が向うよう一緒に歩み続けることなのかもしれない。人と人がつながること、違いの豊かさを認めること、理想論であるかもしれないが、「人」として基本的な事を継続してゆくことがNGOであれ、地域社会の活動であれ大切なことだろう。講師の方のとても穏やかで明るい人柄の中にも熱い「何か」を感じたのは私だけだろうか。

平凡なサラリーマンである私から見ても、今回のシュミレーション研修は、大変学ぶことが多かった。しかし全体の発表の中でも述べられていたように、資金集めの問題や対費用効果および現地の人々による評価については、わが国のNGOの抱える大きな課題だろ

う。それらを乗り越える「知恵」を身に付けて行かなければ…。

もう一度NGO活動に関わろうとしている私の原点は、何なのかを確かめる研修であったような気がします。

一人が人としてつながること—

関係者の皆さまに深く感謝いたします。

人生、他人の役に立てたら 一層楽しいはずである

坂井 章 (広島市)

私の若かりし頃に「知恵と勇気の子…」のヒーローがテレビ画面で活躍した頃をふと思い出し、素直な気持ちでNGOに参加することの重要性を顧みたら反面、「知恵」という素晴らしいものの必要性を更に強く認識した今回のNGOカレッジでありました。

- ・個性豊かな参加者が小グループを編成し、設定されたテーマに対し、各人の経験と意見を議論し・情報を集め・研究し・検討する。
- ・発表会においては、厳しい質問やなるほどと唸らせる発表内容。
- ・講師の方々の講評・好評・高評。

自分のグループが一番良かった???との自己満足。楽しい集結でありました。人と人との間を「信頼感という綱」で結ばれたま〜るい輪。

「すべての人々の幸福感の向上にむけて」というような高次元のレベルよりは「困っている人がいるから、何とか行動したい。」…スー

パーマンのように一気に解決できるわけではありませんが、一步一步進んで行く活動(ときには素早く)…でも…自分の満足感は十分味わえる(甘い味・苦い味・辛い味…)活動は何と言っても面白い感じがします。

いま地球上で起こっている様々な問題…民族間の争いなど、「人が造りだした問題」や自然界が怒って「人類に対して、地面を揺るがし地割れを起こし、大雨を降らし、洪水を起こし、災害という警告」また、地球規模での人類における人口問題…。

現実を知れば知るほど「何かしなければ」の思いが深まる時代の中で、小さな自分をどうすればいいのか?…な〜に、ぼ〜とした人生でも良いのではないか。…いや、何かした方が面白いよ。

人生面白いほうが楽しいに決まっている。ならば、少しでも他人の役に立てたのならより一層楽しいはずである。

今回のNGOカレッジには、目標をしっかりと掴み、一直線に力強く活動を行っている方々が多く参加されていました。その人達から少しずつエネルギーを分けていただいて、大変満足しました私です。さあ!やってみようじゃありませんか!

PCM手法:PCM (Project Cycle Management) 法 完全な技術開発や技術供給を推進するために特定技術の有効性・安全性・普及性・経済効率・倫理面等の(事前)評価法。国際保健医療分野で頻出する評価・調査法の一つをいう。(はばだけ!NGO・NPO第3章 国際貢献・協力のキーワードより)

NGOカレッジ

ダイジェスト

第2回 NGO カレッジでの講義をテープ起こししたものをダイジェストで紹介します。

(一部抜粋)

国際ボランティア基礎理論：市民による国際協力の現状と課題

NGO活動推進センター 伊藤 道雄

* NGO を取り巻く環境

もし NGO という言葉の内容を市民性を持ちボランティア性を持つ国境を越えた課題に取り組んでいる団体、非政府、非営利の団体として定義付ければ、日本にはそういう市民活動団体は約450ぐらいあります。こういう団体がどのような地球社会と対峙しながら活動しているのでしょうか。

世界の人口が1994年現在で55億5千万人ということです。より最新のデータではおそらく58億人ぐらいになっていると思われませんが、一応1994年のデータをもとにお話します。

世界の国民所得が25兆ドルに達しています。その配分の状況は、先進国といわれる国々の総人口12.2億人(22%)の国民所得が20.7兆ドルを占め、開発途上国といわれる国々の総人口43.3億人(78%)の国民所得は4.3兆ドルなのです。もう少し解りやすくいえば、例えば世界の人口が5人とし、そして5人の所得が100万円とします。その100万円の分配が、先進国(20%)にあたる1人に80万円、あとの開発途上国にあたる4人に20万円となっているわけです。しかし4人をもう少し細かく分析しますと、1人が10万円、残り3人が10万円をそれぞれ3.3万円ぐらいずつもらっているという状況なのです。そこで先進国が1960年代から援助を始めたわけですが、援助をした結果、この貧富の格差はさらに大きくなってしまいました。データによると、1960年には最下位の最貧困層の人たちが占めた国民所得は2.3%だったのに(ちなみに最富裕層の占めた国民所得が70%)、1991年には最貧困層の占める割合は1.4%に下落してしまったのです。同じ年の最富裕層の割合は85%に跳ね上がったのです。15%も上がっています。さらに1994年には最貧困層が1.1%、最富裕層が86%となったのです。これが世界の現状なのです。

最近グローバル化という言葉が氾濫しています。その言葉そのものは地球化、世界化という意味です。身の周りを見渡せばほとんどの製品の原材料は海外から来ている。テレビを見れば世界のニュースが入ってくる。アジア、アフリカにすぐ飛んで行ける。全てがグローバル化しているわけです。特に経済のグローバル化は凄まじい勢いで進んでいます。多国籍企業が生産から販売まで支配し、地球社会が一つの市場になってしまっている、経済圏に入ってしまったのです。そういう状況が進んで、その結果おそらく富は行き渡るであろうという期待があったのですが、あに凶らんや逆になってしまったのです。

開発途上国の中でもグローバル化の波に乗った人たちと、乗れなかった人たちがでてきたのです。例えば東南アジアでも、MBAを取ってハーバードやエール大学などで勉強してきた人たちは帰国して外資系の企業に就職しました。チャンスを与えられた人たちはどんどん伸びていきました。しかしそうでない人たちはどんどん貧しくなっていきました。外資系の企業が進出して来れば農村から都市へ人々が流入し、そこで職にありつけなかった人たちはスラムを形成していく。違法な居住地区がたくさん出てくるのです。そこでは住民登録などしていませんし、行けるような状況でもないから子どもたちは学校にも行かない。このようにしてますます貧富の差が激しくなってきたのです。

1日1ドル(約140円)以下で生活している人たちは世界で13億人くらいいます。1987年には12億人でしたが、1994年には13億人に増えてしまいました。安全な水が飲めない人たち、いわゆる赤痢菌がいるとかどんな菌がいるかわからないような川の水や井戸の水、あるいは溜まった水

しか飲めない人たちは10億人いる。55億5千万人のうち10億人は安全な水が飲めないのです。さらには1日の食料の確保が儘ならない人たちが8億4千万人。読み書きのできない人たちが10億人。小学校教育を受けられない子どもたちが1億1千万人。貧しいが故に労働しなければならない子どもたちは14才以下が7千3百万人もいるのです。

因みにこれも1994年現在ですが、世界のトップの資産家358人が所有する総資産額が7千6百億ドルですが、世界の貧しい人たち25億人が持つ総資産と同じなのです。凄まじいデータはたくさんありますが、こういった状況の中で、日本人はいったいどんな生活をしているのでしょうか。台所を見れば残ったゴミの3割は食べ残しです。紙の使用量は例えばカンボジアの人たちと比べれば1千倍の紙を使っています。水も貧困な人たちの数百倍近い量を使っています。特に私たちが認識しておかなければならないのは日本ほど世界の資源を食い荒らしている国はないということです。OECDが発表しているデータですが、日本の穀物自給率はわずか30%に対して、他の先進国は、例えばフランスは221%、アメリカは109%、ドイツは106%、イギリスは105%と、自給自足を行っているのです。すなわち日本は世界の土地を農地化して日本に輸入しているにもかかわらず食べ残しがあるという状況です。エネルギーの自給率も、日本はわずか9%です。これも先進国では最下位です。オーストラリアは167%、カナダは134%、ロシア122%、中国109%、アメリカ85%。つまり日本は世界の資源に依存しきっているのです。

* 日本NGOの現状

こういった地球社会がある中で、NGOと呼ばれる市民団体が立ち上が

りつつあります。今まで国家が対処してきた環境問題、地球温暖化の問題、大気汚染、オゾン層の破壊、国家単位ではもう対応できなくなってきました。地球全体がまとまらなければならない状況が生まれてきています。そしてもう一つは経済成長主義に対する反省。経済のグローバル化、金儲け主義そのものが環境を悪くしてきているのです。ひいては人身まで退廃させているという状況があります。こうした背景に心ある市民が世界中で立ち上がったのです。アメリカでもヨーロッパでも、そして遅まきながら日本でも。そういった市民活動団体をNGOとかNPOと呼んでいるわけです。

ただ問題はそう簡単にはいきません。歴史は行きつ戻りつするものなのです。結局日本でも一時NGOが騒がれましたが、今やバブルが崩壊してNGO自身のバブルも崩壊してしまい、現在戸惑いの状態に入っています。

このNGOの状況もデータの紹介しますと、先に市民による国際協力活動団体は約450団体あると申しましたが、その団体の多くは教育と保健に関わっています。その他は農村開発、農業開発、地場産業の育成、女性問題、環境問題と、多種多様です。

日本のNGOは世界100ヵ国で活動しています。そのうちアジアで80%の団体が関係しており、一番多いのはフィリピン、タイ、ネパールで、それぞれ約50団体が活動しています。

また担い手も大きく分けて5つのパターンに分かれます。一つ目は宗教的背景を持った人たちです。こうした活動は倫理観がなければならない。倫理観を裏づけるものは宗教心ということで、歴史的にも宗教的背景を持った人たちが多かったのです。最近20%くらいに下がっていますが、60年代は非常に多かったです。二つ目のグループは若い人たちです。青年の情熱を表現するようなグループです。三つ目は多少時間がある人たちです。企業を退職した人たちとか、家庭の主婦たち、特に子育てが終わって時間ができた母親です。すなわち生活にゆとりがある人たちです。四つ目のグループは専門職を背景とした人たちです。医者、弁護士、教員、特に

医者を中心にしたNGOが最近多くなっています。五つ目は企業に勤めている人たちです。企業に勤めながら土曜日、日曜日あるいは夜に活動するグループもあります。

NGOを支える人数ですが、有給で専従で活動している人が国内では690名、海外にスタッフとして出ている人228名。有給であって一週間に4日以内の人、パートで働く人が321名です。その他はボランティアとして何千名、もしかしたら何万名もいらっしゃると思います。

活動資金をどのように集めているかということでもいくつかのパターンに分かれます。一つは会費収入です。団体の目標に共鳴する人たちに会員となってもらうのですが、会員数も日本全国で34万人から36万人ともいわれています。しかし1万人以上の会員を抱えているのは5、6団体で、大半は平均2,300人です。二つ目の収入源は個人、企業、団体等からいただく寄付です。三つ目は民間財団の助成金、四つ目は国際ボランティア貯金、五つ目は行政からの補助金。そして最後の収入源は事業収入です。NGOそのものが事業をしながら収入を得ている。我々NGO活動推進センターも「NGO Directory」を出版し、販売しています。またセミナーを開催して参加費をいただいています。日本の状況は会費が全体の36%、寄付25%で、まだまだ補助金や委託金のようなのは10%から15%です。217団体の統計による収入は196億円です。196億円日本国内から集めているのですがピンからキリまでありまして、一つの団体で39億円くらい収入がある団体もあります。トップ10団体くらいが日本のNGOが集めたお金の7、8割を占めており、大半はまだまだ数百万円、数千万円の世界なのです。

* NGOの抱える課題

課題をリストアップすると、一つ目は活動資金です。活動資金として事務管理費つまり人件費と事務所代です。これが非常に困難です。二つ目は人です。今、NGOには専門性が必要とされています。同じお金を使ってどれだけ成果が上げられるのか、

企業では効率が追求されますが、NGOの場合緊張感があまりない。だから汗水流して現地へ行って、1,000万円かけて1基の井戸しか掘れなくても喜ばれてしまう現実がある。しかしながらいつまでもそんなことも言ってもらえない。NGOにおいても事業の効率と成果が求められるようになってきているのです。そういった意味でも専門性が要求されつつあるのです。ボランティア精神も必要ですがターゲットとするテーマに対して専門能力を持っていないといけないということが二つ目の課題です。三つ目は市民組織間のネットワークです。NGO同士もっと連結する必要性があります。これは活動国のローカルNGOとも同じことがいえると思います。協力関係をもっともっと強めていくべきなのです。そして最後の課題は政府、自治体がNGOと接点を持つようとしています。そこで政府、自治体とどういう関係を持つていくかということがNGOにとって大きな課題となりつつあります。

すなわち政府、自治体と良きパートナーと成り得るかどうかが。これはまだまだ大きな課題を含んでいます。というのはNGOと行政の性格というのは基本的に違うところがあります。行政は公平中立を掲げなければなりません。NGOは必ずしも公平中立ではありません。特定なグループに非中立的、不公平に援助していくのですから。このかなり性格の違う両者が一緒になるときはということが起きるかという問題があります。その他にもお金の関係があります。要するに補助金をもらうときに行政の性格を持っていますからNGOが柔軟に使えません。それを行政がどこまでNGOに合わせるのか、あるいはNGOが行政的な方向に引っ張られていくのかというような課題があります。また国際協力を考える場合に一緒になって制作対話ができる場があるか、一緒になって考えられることができるかどうかという課題もあります。行政が用意してNGOがお客様扱いされる場合があるのです。いずれにしてもNGOと行政が共同事業を行っていきける方向をみつけ出さなければならない大きな課題がNGOにも政府、自治体にもあるのです。

国際協力のわ

◇
広島大学教育開発国際協力研究センター 研究支援推進員
元青年海外協力隊ホンデュラス算数プロジェクト隊員
NGO カレッジ受講生 西原 直美

1999年1月17日午後1時、名古屋駅ハイビジョン前に16人から成るひとつの輪ができました。中米ホンデュラスの小学校で働いているアンヘラ先生が、昨秋中米を襲ったハリケーン“ミッチ”のビデオを抱えて一次帰国(?)したのを機会に全国から集まった16人です。この16人がなぜにここに輪を作ったか、をこれから紹介しましょう。

アンヘラ先生は、ホンデュラスで伝統的に行われている記憶中心の算数指導に疑問と限界を感じ、ホンデュラスの先生と青年海外協力隊が共同して進めていた算数プロジェクトのセミナーに参加。1997年一隊員の推薦を受け、プロジェクトリーダーとなるべく10ヶ月間、岐阜県教育センターで研修を受けました。(③)

青年海外協力隊員は各自の協力事業の効果的・効率的推進を目的に、カウンターパートを海外研修員として推薦することができます。受入の是非は海外研修員受入事業を行っている県次第ですが、西語圏内からの英語を解さない研修員の受入は対応が難しいからという理由で、非常に難しいのが実情です。そんな中で、1991年以来7名もの算数プロジェクトからの研修員を受け入れている岐阜県は異例だといえるでしょう。このような国際協力事業の実現は、受入現場のスタッフによるところが大きいのです。このスタッフの一員として長年、公私にわたり研修員を支えてきた元岐阜県教育センターの

職員一名、そして、8人目の研修生レオネル先生の姿もこの輪の中にもありました。(②、①)

10ヶ月の研修はどの県でもほぼ6月に始まります。8月にげっそり痩せてしまっていたリタ先生も、元気に受入先の神奈川県国際研究センターからかけつけました。神奈川県における教育分野での受入研修員の草分けだった彼女は、研修計画を立てる時点から苦労の連続。神奈川県内に住む元算数プロジェクト隊員(彼女の推薦者)の助けを借りて、デスクワークに偏らない、教育現場とのアクセスを可能な限り盛り込んだ研修を進めることができましたようです。研修員のサポートは研修のみならず生活面にも及ぶので、家族ぐるみの付き合いになるのが常ですが、それを実証するかのように、サポートしてきた元隊員と、その家族、2つの笑顔が輪の中で輝いていました。(⑦、④、⑧)

研修期間も残すところ2ヶ月となると、最終報告書の構成について相談に余念がありません。彼女の相談相手は、広島大学附属東雲小学校で研修に励んでいるデルミ先生。彼女は同校受入3人目の研修生。従って、受入現場の人々の対応や研修計画も1人目、2人目の研修員たちの涙と闘いの下に築き上げられています。しかも教育指導研究の最先端にある附属小学校で日々研修を積んできたことから、目的達成ラインに最も近づいているといえるかもしれません。そんな

彼女の口から吐き出されるものは、ハリケーンによって自分が知っているホンデュラスとはまったく違う現実を見るのは怖いけれど、早く帰国してホンデュラス(教育)再建の、算数プロジェクト継続の力になりたい、ということばかりです。(⑤)

そんな元気いっばいのデルミ先生ですが、来日後の2ヶ月間は毎日、筆者が宿泊先の中国国際センターを訪れるのを待っていたのです。英語で進められる日本語研修で受けるフラストレーションと疎外感は相当な精神的負担になっていたのでしょうか。1日の出来事をただ聞くだけという作業ですが、自分の言葉で思いきり表現できる喜びは何物にも代えがたいもの、それが心の拠り所となるのです。私ども2人は広島から手を取り合せて(むしろ、筆者が引きずられて)名古屋駅での輪に日帰り参加したのです。(⑩)

岐阜県での歴代研修員の心の拠り所となってきたのは、名古屋に住むやはり元算数プロジェクト隊員、そして岐阜に住む元ホンデュラス音楽隊員です。彼らは、何の義務感にも縛られず手弁当で6年にわたって、着かず離れずの研修員たちの心の拠り所となってきました。国際協力事業を草の根レベルで支えているのは、自然に湧き出す、滲み出すボランティア精神です。(⑥、⑬)

その彼らが連れてきた2人の新しい仲間が輪の広がり大きくしていました。うち1名は、元青年海外協力隊ニカラグア派遣隊員、そしてもう1人は、4月から始まる2ヶ月半の派遣前訓練終了後、算数プロジェクト隊員としてホンデュラスに派遣される予定の青年海外協力隊候補生です。新しい顔、なじみの顔、先が見えず不安な顔、何か

を得た満足顔、求める手に差し出す手、この輪の中には数年間の確かな歩みが見えました。(⑮、⑯写真外)

そして、後者として、算数プロジェクトで共に苦労した仲間、懐かしい出会いと新しい情報を求めて東京、千葉そして大阪から参加した3人を数えれば、合計15名。

(⑭、⑩、⑨)

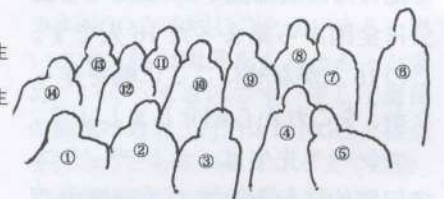
そして16人目、この集まりを企てた、ホンデュラス算数プロジェクト初代リーダーは、いつものように静かに輪を眺めていました。この集まりを算数プロジェクト同窓会と呼びましょう。実は算数プロジェクト同窓会は今回で2回目を数えます。前回は1995年3月にやはり初代リーダーの調整で開催されました。筆者は、1995年6月から本プロジェクトのシニア隊員として2年間、プロジェクト第1フェーズの評価と第2フェーズの計画立案にかかりましたが、その活動期間中の大きな支えの1つにこの同窓会がありました。とかく入り込みがちになる視点を、外部から指摘されることで修正することができたことが最も大きな支えとなりました。従って、本同窓会は算数プロジェクト国内支援委員会とも呼ぶことができるのです。このような、海外で行われている国際協力事業において国内支援委員会を持つことは、大変意味があることなのです。残念なのは、これがシステムとして確立していず経済的支援もないことです。(⑩)

以上16名が、名古屋駅ハイビジョン前に作った輪は、ホンデュラス算数プロジェクトを介した大きなボランティアのわといえるでしょう。

では、ホンデュラス算数プロジェクトとは、これを少しご紹介しましょう。



- ①岐阜県教育センターで研修中のレオネル先生
- ②岐阜県教育センター職員
- ③昨年の研修生、アンヘラ先生
- ④神奈川県在住元算数プロジェクト隊員
- ⑤広島大学付属東雲小学校で研修中のデルミ先生
- ⑥名古屋在住の元算数プロジェクト隊員
- ⑦神奈川県国際研究センターで研修中のリタ先生
- ⑧神奈川県在住の元隊員の家族
- ⑨大阪在住の元算数プロジェクト隊員
- ⑩千葉在住の元算数プロジェクト隊員
- ⑪初代算数プロジェクトリーダー
- ⑫筆者
- ⑬岐阜県在住の元ホンデュラス音楽隊員
- ⑭東京在住の元算数プロジェクト隊員



ホンデュラス算数プロジェクトは、教育分野での協力隊個別活動では人づくりの効果は上がりにくいという反省の下、1991年同国文部省との協約を得て、小学校教員の算数知識と算数指導技術を向上させることによって、児童の算数学力を高めることを目的に始められた隊員グループ協力活動です。特長は、隊員がグループ形式で活動することにより、より大きな活動インパクト・結果(教材の作成など)が得られること、人づくりのような長期間の活動を必要とする教育分野において、歴代の隊員が教員の養成にあたるのでリーダー養成が可能になり、持続可能なプロジェクトを構築できること、なにより、主とした担い手が現地(被援助国)の教員なので協力効果がダイレクトに得られることです。しかし、草の根事業の難点も持ち合わせており、活動の後援(経済的支援)が不安定で、活動経費は殆ど

各教員のポケットマネーに頼らざるを得ません。反面、これが算数プロジェクトで活動を展開している先生たちのすごいところで、セミナーを開き、授業観察で学校を訪問し、研究会を開催したり、さまざまな活動をボランティアでやってしまうのです。すでに6年以上が経過していますが、筆者の初めてのセミナーに参加したある小学校教員が「今の子どもたちに私たちと同じことを繰り返させてはいけない」とつぶやいたその言葉が、何をするときにも頭の中で警鐘を打つのです。さまざまな人の尽力と協力で、日本での研修を終えた算数プロジェクトカウンターパートはすでに16名を数え、現在ホンデュラスで算数プロジェクトの地域リーダーとして活動を展開しています。そして、元算数プロジェクト隊員は文字通り北海道から沖縄まで全国各地に36名、算数プロジェクトの絆でつながっています。

あなたのちからを必要とする人たちがいます 市民と市民の助け合いが21世紀の平和な生活を創ります！

岡山県に本部を置くAMDA（アムダ）は、1984年に設立以来、海外（アジア、アフリカ、南アメリカ）、国内において様々な医療救援活動を行っています。

海外活動

- 1) 緊急救援活動 「困ったときはお互いさま」
難民や自然災害避難民の救援をできるだけ俊敏に行うため、アジア、アフリカ、南アメリカの国々の医師達で「AMDA多国籍医師団」を組織し、世界各地で緊急救援医療活動を行う。
- 2) 地域開発活動 「21世紀に生きる子ども達に平和な生活を」
開発途上国において、子ども病院等の病院建設を行い診療活動を、あるいは無医村への巡回診療活動を主とし、保健衛生教育、自立支援教育等も行う。

国内活動

- 1) 地域防災民間緊急医療ネットワーク
日本医師会、全日本病院協会、自治体等と協力して国内での災害医療に対する緊急救援活動訓練を行う。
- 2) JANAN（日本NGO／NPO協議会）
市民団体と地方自治体が連携して国際交流・国際協力活動を推進するための共同プロジェクトを組織し活動する。

現在、約40のプロジェクトを行っています、活動の種類としては2種類あります。

1) 緊急救援活動と、2) 地域開発活動（インドネシア、カンボジア、フィリピン、インド、ミャンマー、アフガニスタン、バングラデシュ、ネパール、ジブチ、ウガンダ、ザンビア、ケニア、ルワンダ、ボリビア、ペルー他）です。

緊急救援活動は救援医療活動と救援物資配布活動があり、緊急時に短期的な活動を行います。また地域開発活動は開発途上国の生活改善を目的とし、長期的に診療活動や、保健衛生教育を行っています。ニーズに応じて病院や学校の建設も行っています。新しい活動として女性の自立支援のために職業訓練や具体的自立のための少額融資を開始しました。

活動は常にAMDA本部からの派遣スタッフと21カ国にあるAMDA支部からのインターナショナルスタッフが協力しあって活動しています。

＊あなたもAMDAと共に国際協力しませんか＊

AMDAの開発途上国での様々な活動を継続させるためには非常に多くの資金を必要とします。

どうぞAMDAの活動内容をご理解下さり、皆様からのご支援、ご協力をお願い致します。

AMDAは皆様一人一人の善意を大きな国際協力の力として開発途上国の人々、子ども達に届けます。

- 1、子ども病院建設プロジェクト
- 2、自立支援プロジェクト
- 3、地域医療プロジェクト
- 4、地域開発（生活改善）プロジェクト
- 5、緊急救援プロジェクト

左記プロジェクトへのご寄付は
1～5の名称をご記入の上、
お振込下さい。



●寄付送付先：郵便振替 口座番号 01250-2-40709 口座名 AMDA
第一勧業銀行岡山支店（普通）1816947 口座名 AMDA

皆様からのご寄付に対して、課税優遇措置を受けることができます。詳しくはAMDA本部までお問合せ下さい。

AMDAへのご支援を

1 AMDA への入会

- ・ 医師会員 15,000 円
- ・ 一般会員 10,000 円
- ・ 学生会員 7,500 円
- ・ 法人会員 30,000 円
- ・ 賛助会員 2,000 円

会費は入会の月より1年間有効です。入会の月より毎月、「AMDA Journal」を送付します。賛助会員にはAMDAダイジェストを送付します。

2 AJ AMDAカード 全日信販発行

利用額の0.5%が全日信販よりAMDAに提供されます。

●お問い合わせは
AJ AMDA デスク TEL086-227-7151



3 AMDA テレホンカード

■ 1枚 (50度数) 1,000円
300円が収益となります。
送料実費



4 AMDA ボランティア 定期預金

中国銀行

税引き後、利息の20%をAMDAにご寄付いただきます。

中国銀行からも預け入れの口数に応じて、寄付をいただきます。

●お問い合わせは TEL086223-3111



5 0070 KDD ボランティアダイヤル

0070 市外電話ご利用額の5%が義援金(全額KDDにて負担)としてAMDAに提供されます。

●お申し込みは
TEL 0070-800-0070 (無料)

6 グリーティング カードセット

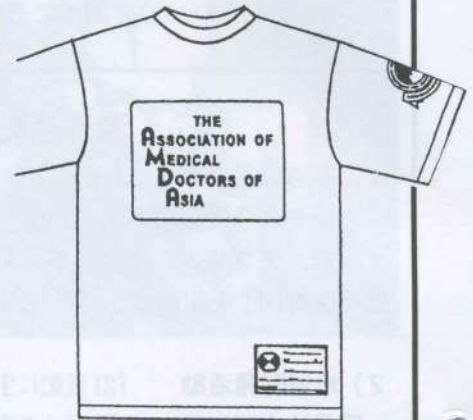
ルワンダ難民の描いた
キャンプ風景カード

カード 10枚1組 1,000円
送料実費



7 AMDAT シャツ

津村ゆうすけ氏デザイン
ファイナルホームの製品
・ ホワイト (グリーンロゴ)
送料実費



8 AMDA 募金箱設置

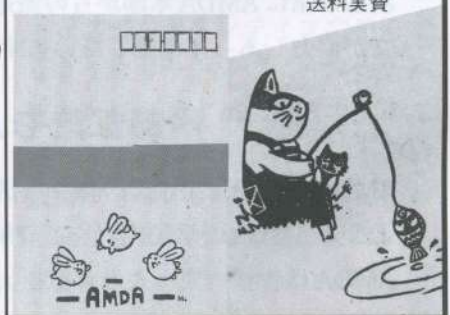
AMDA 募金箱
設置が可能な方
ご連絡下さい。



9 AMDA プロジェクト 支援グッズ

「AMDAのプロジェクト支援」
のためネパールで作成された。

レターセット封筒 10枚 400円
便箋 400円
送料実費



- * 未使用のテレホンカード・書き損じのハガキ・未使用の切手、ハガキなどがありましたらAMDAにお送り下さい。
- * 入会1.は 郵便振替 名義AMDA 口座番号01250-2-40709まで
- * 購入3.6.7.は、郵便振替 名義AMDA販売 口座番号01220-9-8991まで
ご希望の方は、振込用紙に詳細をご記入の上、金額をお振込下さい。
- * 2 4 5は各自で加入して下さい。
- * その他お問合せは、AMDA本部 岡山市栢津310-1 TEL 086-284-7730へ

あなたもできる国際協力

AMDA 関係 刊行物のご案内

- ・お問い合わせは、AMDA 本部事務局まで。
TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
- ・お申し込みは、郵送か FAX でお願いします。
- ・お支払いは、郵便振替でお願いします。送料別。
口座 AMDA 出版 口座番号 01220-6-12076

AMDA Journal

— 国際協力 —

毎月 1 回発行

アジア・アフリカ・南米での AMDA の医療救援活動のレポートを中心とした月 1 回発行の情報誌。会員には会報として自動的に送られている。

初刊 1992 年 12 月より現在に至る。バックナンバーは一部を除いて揃っています。希望の方は、AMDA 事務局まで。



定価 600 円

AMDA の提言

— 人道援助の世界都市 —

岡山から世界に飛び出し、国際的な医療 NGO として知られる AMDA。その代表の著者が問いかけ、提案する。「日本は経済大国から、人道援助大国をめざせ。岡山に世界へ向けての人道援助ネットワークの拠点を築こう」と。

256 頁

ISBN4-88197-607-9 C0036 P1600E

- ・菅波 茂 著
- ・出版元 山陽新聞社
- ・1996 年 11 月 25 日発行



定価 1,631 円

AMDA Journal

— 国際協力 —

毎月 1 回発行

アジア・アフリカ・南米での AMDA の医療救援活動のレポートを中心とした月 1 回発行の情報誌。会員には会報として自動的に送られている。

初刊 1992 年 12 月より現在に至る。バックナンバーは一部を除いて揃っています。希望の方は、AMDA 事務局まで。



定価 600 円

ルワンダからの証言

— 難民救援医療活動レポート —

援助大国とはいえ、国際的な NGO に比べると組織は小さく財政的にも弱い日本の NGO が、劣悪な環境の中でルワンダ難民のために活動した記録。

200 頁

ISBN 4-521-00541 C0030 P2000E

- ・AMDA 著
- ・出版元 中山書店
- ・1995 年 4 月 3 日発行



定価 2,039 円

遥なる夢

— 国際医療貢献と
地域おこし —

AMDA 設立までの経過と活動記録。AMDA に関わった人々について紹介すると共に AMDA の展望と日本の NGO 活動への提言。

316 頁

- ・菅波 茂 著
- ・出版元 AMDA
- ・1993 年 9 月 20 日発行



定価 2,500 円

とびだせ! AMDA

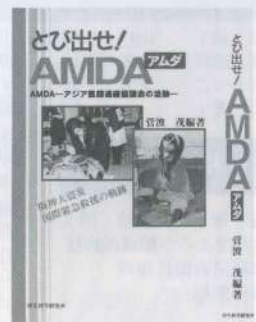
— AMDA・アジア医師
連絡協議会の活動 —

第 1 部 阪神大震災における AMDA 医療ボランティアの動き。緊急救援活動における後方支援体制。防災への提言。

第 2 部 国際緊急救援での活動記録。バングラデシュ、ネパール、カンボジアやルワンダ、ソマリアなどの紛争地区での難民救援活動の記録。270 頁

ISBN 4-905690 21-8 P1800E

- ・菅波 茂 著
- ・出版元 厚生科学研究所
- ・1995 年 7 月 15 日発行



定価 1,835 円

はばたけ! NGO・NPO

— 世界の笑顔にあいたくて —

自然災害・難民救済・環境破壊・高齢者福祉など様々なボランティア活動は国内だけでなく国際的な広がりが求められています。広島県と共同開催の第一回 NGO カレッジの講義録で、国際ボランティアを志す人に必携の書。328 頁

- ・ひろしま国際センター編
- ・出版元 中国新聞社
- ・1998 年 3 月 25 日発行



定価 1,850 円

ISBN4-88517-263-2 C1030 P1800E

阪神大震災と 市民ボランティア

— 岡山からの証言と提言 —

岡山は動いた! 5 千人を超す犠牲者を出した阪神大震災。岡山県内からは自治体、民間を問わず大勢の人が活動を続けてきた。その活動と今後への提言を記録した。

270 頁

ISBN4-88197-607-9 C0036 P1500E

- ・小田兼三・田代菊雄編著
- ・出版元 山陽新聞社
- ・1995 年 9 月 1 日発行



定価 1,529 円

第6回医療通訳養成講座の報告

第6回医療通訳養成講座が2月20日、神奈川県大和市の小林国際クリニックで開かれました。参加者は5名、講師は薬剤師の篠原真理子さんと保健婦の中沢由江さん、ともに神奈川支部の会員です。

まず、薬剤についての講義がなされました。実際に薬局で使用されている問診票や説明書などをもとに以下のような内容の話がありました。

1) 問診票の質問事項の目的: アレルギーの有無、車の運転、高所での作業の有無、妊娠中であるか、他にかかっている医療機関の有無などの質問事項により何を聞こうとしているのかについての説明がありました。

2) 服薬指導: 薬剤師は患者に正しい情報の伝達がなされるよう心がけています。

- ・保管に関する注意事項
- ・服用または使用に関する注意点: 薬品名、薬効、用法、用量、服用法、副作用、相互作用(薬同士の組み合わせに加え、食品との組み合わせに注意を必要とするものがある)
- ・記録: 老人健康手帳や個人で服薬ノ

ートを作るのもお勧めです。また、薬局の中には服薬手帳なるものを置いてある所も増えているので、尋ねてください。

・副作用に関する説明は、適確に行うことが重要です。なぜならば、副作用を心配するあまり薬を飲まない人もいます。

3) 参加者からの質問: 処方箋などの記録の保管期間は?

—3年間です。薬歴も同様です。処方箋はその1回限りのものですが、薬歴により経時的にみることができ、また、他の薬との飲み合わせもチェックできます。

続いて、中沢さんから母子と感染症を中心に保健行政に関する講義がありました。

1) 保健所の機構: 政令市とそれ以外の市町村の違い

2) 予防接種: 従来の義務接種から平成6年に勧奨接種に変わった。外国人でも、母子手帳を入手することが予防接種を受ける第一歩につながるため保健所で母子手帳をもらって欲しい。

3) 結核: 学校、職場、保健所で検診が行われている。療養費の公費負担制度がある。

4) AIDS検査: 保健所では、無料・匿名で実施している。夜間・日曜に行っている所もある。発症した場合、内部障害者(1級~4級)に認定される。

5) 母子保健: 母子手帳の交付が様々なサービスの始まりなので通訳の方からも取得をすすめて欲しい。妊婦検診は、妊娠前半と後半に無料で各1回受けられる。未熟児養育医療や小児慢性特定疾患の医療費助成など多くの育成や医療に関する支援制度がある。これらについて医療機関で説明がなされないことがまれにあるので、困った時には保健所や福祉課などに相談にきてほしい。

6) 参加者からの質問: 不法滞在の外国人が相談に行ったら通報されるのではないかと一通報することはないので、健康上の問題を抱えている人は安心して相談にきてほしい。

時節柄、花粉症の薬について具体的な質問もあり、和やかな雰囲気の中終了しました。今年度は3月20日に最終回が予定されています。多くの方のご参加をお待ちしております。

AMDA 国際医療情報センター便り

～『AMDA 国際医療情報センターって何をやっているところ?』～

「来日したばかり。今後の為、家の近くに英語の通じるホームドクターを探して欲しい。」

「日本で初めて出産する。出産費用はどれくらいかかるの? 保険でカバーされますか?」

「今月入院したが医療費がとても高かった。何か助成制度はないだろうか?」

「甲状腺の病気がある。言葉にこだわらないので、専門病院を紹介して欲しい。」

「子供に予防接種を受けさせたい。いつどこで受けられるの?」

こうしたお問い合わせに、センター東京では8ヶ国語、センター関西では4ヶ国語でお答えしています。日本に住む外国人が、日本人と同様に医療に関する情報を得るのは非常に困難なことです。病気になると誰でも不安になるもの。ましてや言葉の通じない外国人の不安ははかりしれません。こうした日本に住む外国人が、日本人と変わらぬ医療を受けられるよう私たちは活動しています。

- 活動内容
1. 電話による相談(無料): 外国語の通じる医療機関の紹介、日本の福祉・医療制度案内など
 2. 外国人の医療問題に関するシンポジウム、セミナーの開催
 3. 「11ヶ国語診察補助表」「9ヶ国語対応 服薬指導の本」「16ヶ国語対応 歯科診察補助表」および「両親学級の資料」の出版、販売
 4. 東京都健康推進財団からの受託事業(センター東京)

センター東京 TEL: 03-5285-8088

センター関西 TEL: 06-6636-2333

〒160-0021 東京都新宿区新宿歌舞伎町郵便局留

〒556-0000 大阪市浪速区浪速郵便局留

【対応言語・時間】

【対応言語・時間】

英語・中国語・スペイン語・韓国語・タイ語:
月曜日～金曜日 9:00～17:00
ポルトガル語: 月、水、金曜日 9:00～17:00
フィリピン語: 水曜日 9:00～17:00
ベルシャ語: 月曜日 9:00～17:00

英語・スペイン語:
月曜日～金曜日 9:00～17:00
ポルトガル語/中国語:
曜日により対応可。
事前にお問い合わせください。

ホームページ <http://www.osk.3web.ne.jp/amdack/>

事務局便り

■AMDAジャーナルは本号4月号より、支援者の皆様（広告掲載企業・団体・個人）の御好意により発行することとなりました。ジャーナルの内容は従来通りAMDAの活動報告が主ですが、ページ数を大幅に削減しましたので投稿記事等掲載が難しくなりました。どうぞ御了承ください。

AMDAの活動は、皆様からのご支援があってこそ充実いたします。どうぞよろしく願いいたします。

■ルワンダとザンビアで女性のための自立支援プロジェクトを行ってきた調整員の佐々木諭氏と、このプロジェクトの中の保健衛生指導を行った福井美絵看護婦の帰国報告会を、2月20日に岡山で行いました。

『豊かな社会は女性の手で！』と題された報告会では、前日帰国されたばかりのお二人により、開発途上国への緊急救援活動→復興支援活動→社会経済開発活動という



救援活動の変化の必要性が系統立てて説明された後、実際に現地での社会経済開発活動の一環として行われている女性自立支援プロジェクトの様子が写真等とともに紹介されました。

AMDAジャーナルでも報告されたプロジェクトでしたが、よりリアルに現地での活動状況や、様々な問題点等を知ることができました。参加者の皆様も非常に興味を示され大変好評でした。

■岡山県洋蘭協会による'99春の洋蘭展が3月5日から3日間行われ、今年もAMDA支援の蘭のチャリティー販売を催していただきました。『咲かせよう美しい花・みんなの夢～AMDAとともに』と唱われているように、AMDAの活動の場であるアジア、アフリカ、南アメリカはいずれも蘭の生息地だそうです。こうした開発途上国の生活の発展を願ってAMDAの活動をご支援下さっています。洋蘭展での継続的なご支援に大変感謝しております。

使用済みテレホンカード 再び集めています！

●送付先 AMDA 東京オフィス
〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町1-11-9 山本ビル10F
TEL 03-3639-6632

●お知らせ

AMDA 鎌倉クラブ 発足記念バザー

月日：4月24日（土）

時間：10：00～17：00

場所：聖ミカエル教会の庭

鎌倉小町2-7-24

申し込み TEL 0467-24-2969（根津）

バザー用品を提供して下さる方ご連絡下さい。

AMDA Journal に関するお問い合わせは、AMDA広報局 TEL 086-284-7730 まで

ご入会、会費、ご寄付、その他ご購入のための振込は、本誌綴じ込みの郵便振替用紙をご使用になるか、下記口座をご利用下さい。いずれも振込目的を明記して下さい。

■中国銀行一宮支店（普通） 口座番号1272011 口座名 AMDA

■第一勧業銀行岡山支店（普通） 口座番号1816947 口座名 AMDA

■クレジットカード（全日信販のAMDAカード）での会費納入方法もあります。

AMDAカードについてのお問い合わせは、全日信販株式会社 本社営業部 086-227-7161です。

AMDAホームページ
<http://www.amda.or.jp>

豊かな福祉社会の実現に向かって。

私たちは人類の健やかな肉体と精神のいとなみの実現を理想とし、高度で創造的な研究開発力、生産技術力、販売力、アフターサービス力と、医学的立場およびノーマライゼーションの立場からこれを支援し続けます。私たちは常に先進的でより確かな品質の商品とサービスを創造、提供し続け、その企業活動に係わるすべての人の豊かさと幸せを通じて、より一層社会に貢献し続けます。



THERAPEUTIC EXERCISE EQUIPMENT
機能訓練機器
リハビリテーション機器



PHYSIOTHERAPY EQUIPMENT
物理療法機器



OCCUPATIONAL THERAPY EQUIPMENT
作業療法機器/ADL



HYDROTHERAPY EQUIPMENT
水治療法機器



BATH SYSTEM FOR THE HANDICAPPED
特殊入浴装置

福祉社会に貢献する



本社・工場



岡山第2工場

医用電子機器・リハビリテーション機器メーカー



OG 技研株式会社

本社・工場：〒703 岡山市海吉 1835-7 TEL(086)277-7181 FAX(086)274-9072
岡山第2工場：〒701-42 岡山県邑久郡邑久町向山77 TEL(08692)4-0891 FAX(08692)4-0898
営業所：札幌・盛岡・仙台・千葉・埼玉・東京・多摩・神奈川・新潟・静岡・長野・名古屋
金沢・京都・大阪・神戸・岡山・高松・広島・北九州・福岡・長崎・熊本・鹿児島
URL <http://www.og-giken.co.jp>

▼ワスカラン国立公園 ベルー共和国 世界遺産(自然遺産)1985年登録



▲マチュピチュ(古代遺跡)ペルー共和国
世界遺産(文化遺産)1985年登録



▲四輪駆動車とともに、日本で買った楽器や鉛筆、ノートなどの教材も贈りました。(山田代表と寄贈の四輪駆動車)



▲現地の子供たちが手製の楽器で歓迎。

南米ペルー・アンデス山脈にある、世界遺産「ワスカラン国立公園」は六千メートル級の山々が二十七も連なり、氷河湖が二百九十六もある広大な面積と、「南米のスイス」と呼ばれるほどの美しさを持つ国立公園です。公園内には、アンデスコンドルやラタタ科の動物であるビクーニャが生息していますが、密猟の為に、その数が激減し、絶滅の危機に瀕しています。このワスカランの自然を守りたいという一途な使命感を持った保護官達があります。そして、その保護官達が大きな公園をパトロールする為の車が不足している事を知りました。彼らの情熱と、使命感に共鳴した私たち「山田養蜂場」は、今回、保全活動に必要な四輪駆動車を寄贈してまいりました。みつばちを通じて、自然環境の大切さを学んできた私たちは、人類共通の財産である「世界遺産」の保護活動を支援していく事を決めました。私たちは「地球人」として、緑の星「地球」の未来に向け、人種や国境の壁を越えて、手をつなぎ会い、自然を守り、自然と人間社会との調和に貢献する事を目指しております。

山田養蜂場 代表 山田英生

わたしたちは「地球人」として
緑の星を守りたい。

親子二代、ミツバチと暮らして半世紀。



山田養蜂場
Yamada Bee Farm

山田養蜂場がお届けする、自然からの贈り物。

お問い合わせはフリーダイヤル 0120-3838-82

化粧品のお問い合わせは 0120-87-2222

〒708-0393 岡山県苫田郡鏡野町市場194

★インターネットホームページ <http://www.mico.co.jp>

